

新しい時代の企業倫理～企業の社会的責任（CSR）～

0. はじめに

インサイダー取引、粉飾決算、耐震強度偽装など、企業の不祥事が後を絶たない。これらの不祥事を起こした企業がどのような末路をたどるかは想像に容易い。にもかかわらず、他者を省みることなく利益追求に奔走する企業。しかし、最近その動きに「待った」がかかった。

今勉強会では、過去から現在にいたるまでの企業の社会的責任の歴史の変遷をたどりながら、盛んに行われている社会貢献活動に企業が積極的に参加するようになった理由とその内容を考察し、それに関する問題点等を明確にしたい。

「ステークホルダー」

…利害関係者のこと。金銭的な利害関係の発生する顧客や株主だけでなく、企業活動を行う上で関わるすべての人（地域住民、官公庁、研究機関、金融機関、取引先、そして従業員を含む）。

1. 企業の社会的責任の歴史の変遷

●70年代からあった「企業の社会的責任」という言葉

☆70年代の背景としては60年代に多発した公害問題があった

「企業が社会的に負っている、あるいは追うべき機能を、責任をもって全うすることである」（『企業の社会責任ハンドブック』日本経済新聞社）

…①社会に迷惑をかけること、②企業の本来の機能を全うすること、③社会的な諸問題に参加、協力するなど、広く社会環境の改善、向上に積極的に参加すること

●90年代に入り「企業倫理」という言葉が登場

☆90年代の背景としては企業の不祥事の多発…ex. 株式会社の損失補填、
総会屋への利益供与など

・このころになると企業の代表の謝罪会見などで、「今後は企業倫理の確立に努めたい」という表現が目立つようになる。

・企業の社会的責任は「フィランソロピー、メセナ」などの解説用語として使われるようになる。

→70年代から90年代を通じて、「企業の社会的責任」という言葉と「企業倫理」という言葉の使い分けが進んだということがわかる。

●00 年代に入り広義の「企業の社会的責任」という言葉が登場する

☆00 年代の背景としては①企業の不祥事の質的变化、②海外における企業の社会的責任の取り組みの影響。

①三菱自動車のリコール隠し、雪印の集団食中毒事件

…最終生産物による直接的影響。安全を提供するはずである企業恣意的な不祥事。

こうした一連の不祥事が市民に企業の社会的責任を強く意識させた。

②EU における社会的な取り残しに対する活動、国連によるグローバルコンパクトの推奨

OECD による「ガイドライン」の設置、ISO による企業の社会的責任を規格化する検討の始まり。

…日本がグローバルな流れの中で国際基準に合わせることを求められるようになった。

※以後現代における「企業の社会的責任」を CSR と呼ぶ

「グローバルコンパクト」

…1999 年 1 月 31 日に開かれた世界経済フォーラムの席上、コフィー・アナン国連事務総長が提唱した考え方。企業のリーダーに国際的なイニシアチブである GC への参加を促し、国連機関、労働、市民社会と共に人権、労働、環境の分野における 10 原則を支持するというもの。

「フィランソロピー」「メセナ」

…社会貢献活動のこと。

「ISO (アイエスオー)」

…国際標準化機構 (International Organization for Standardization) が策定する標準化規格の総称。各国の代表的標準化機関から成る国際標準化機関。「民間自身が民間のために民間規格を作る機関として 1947 年に設立され、現在、本部はスイスのジュネーブにある。

2. CSR の定義

「企業が、従業員、その家族、地域社会、社会一般の生活の質を高めるために、産業界にとっても、また発展にとっても好ましいような方法で、それらの主体と協調しながら持続的な経済発展に貢献しようとするコミットメント」(世界銀行)

「企業が、社会に及ぼす自己の事業のマイナスの影響を最小限にとどめる一方で、プラスの影響を最大化することを確保する経営上の実践である。」(カナダ・フィランソロピー・センター)

「組織の法的背任を超える社会的・環境的課題を、組織が自主的に、自己経営活動と利害関係者との相互関係の中に統合するメカニズム」(オーストラリア CSR 規格 8003-2003)

『CSR とは、社会が企業に対して抱く、法的、倫理的、商業的またはその他の期待に対

して標準をあわせ、すべての鍵となるステークホルダーの影響に対してバランスよく意思決定することを意味する。」(ビジネス・フォー・ソーシャル・レスポンシビリティ)

→多くの定義案に共通することは「トリプルボトムライン」と「ステークホルダー」の重要性。

- ①「トリプルボトムライン」と「ステークホルダー」を結びつける上で重要となるのはコミュニケーション。コミュニケーションは「インテグリティ」「アカウンタビリティ」「トランスペアレンシー」といった倫理的支えによってはじめて可能となる。
- ②コミュニケーションやその他もろもろの活動に当たるにしろ、やはり社会的大儀が必要となる。それは「社会に迷惑をかけない」＝「社会に貢献する」という理念。

☆以上のキーワード、概念、要素を、経営理念、経営戦略の中で統合し、実践に結び付けていくこと、かつ社会からレピュテーションを受けることが CSR である。

「アカウンタビリティ」

…企業が資金提供者である株主に対して会社の経営状況を説明すること、またはそうする義務を指していた。

「インテグリティ」

…企業の誠実性のこと。いまでは、自己管理、責任感、道徳的健全さ原則への忠実さ、堅固な日的意識などの質の高さに関連する広い意味にとらえ、組織の不祥事を防ぐことができるという考え方による。

「トランスペアレンシー」

…企業の透明性のこと。

「トリプルボトムライン」

…企業を環境的側面、社会的側面、経済的側面の 3 つの側面から評価することにより、サステイナビリティ (持続可能性) を実現するための重要なフレームワークである。

3. CSR を推進するさまざまな力

☆企業を取り巻くさまざまなステークホルダー

- …①株主行動主義、②消費者行動主義、③労働者行動主義、④調達行動主義、
⑤市民社会行動主義、⑥規制当局行動主義。

①CSR における株主行動主義の具体的な行動

・株主提案を提出…雪印乳業の社外取締役に消費者代表を選任することを提案。ソニーに 障害者の受け入れを提案。いずれも成功。

- ・株主代表訴訟を提起…三菱自動車のリコール隠しにおいて、従来の損害賠償を求める裁判でなく、会社側にコンプライアンスを確立するための「基金」を設立させた。

②CSR における消費者行動主義の具体的な行動

- ・グリーンコンシューマー…環境や社会に配慮した商品を購入する消費者。近年では「フェア・トレード」が流行している。
- ・SRI ファンド…SRI とは企業が社会的責任を全うしているかを、投資判断材料として実践する投資哲学。CSR を実践する企業に投資することによって、間接的に企業の CSR を応援していることになる。
- ・ボイコット…NHX の不祥事などにたいする消費者の支払い拒否。

③CSR における労働者行動主義の具体的な行動

- ・内部告発…雪印食品による牛肉偽装事件で牛肉詰め替えの現場となり、事件を内部告発した西宮冷蔵。
- ・労働組合…労働組合による企業への意見申し立て。日本労働組合総連合会は三菱の不祥事に対して労働組合のチェックが甘かったと指摘。

④CSR における調達行動主義者の具体的な行動

- ・サプライチェーン…ある資源を商品とするまでの様々なプレイヤーのつながり。このチェーン上のプレイヤーが、企業や組織の壁を越えて情報を共有することにより、それぞれのところで発生していた無駄を排除し、ビジネス・プロセスを効率化したうえでコストを最小限におさえながらもビジネス・スピードを飛躍的に向上させ、顧客満足度を追求していく経営手法の事。

⑤CSR における市民社会行動主義の具体的な行動

- ・NPO、NGO…たとえば、児童労働人権弾圧、環境破壊などを行う企業に対して不買運動を訴える市民団体など。

⑥CSR における規制当局行動主義の具体的な行動

- ・政府によるペナルティの強化…先に述べた 90 年代における企業の不祥事にたいする罰則の強化。

「エコファンド」

…従来の財務上の尺度に加え、企業の環境問題への取り組みも投資尺度に加えて銘柄選定を行う投資信託のこと。

「SRI」

…**Social Responsible Investment** の略。企業に投資する際、本業の業績に加えて、法令遵守、企業倫理、環境保護など企業に期待される社会的責任をどれだけ果たしているかも投資尺度とすること。人権への配慮、雇用面の取組み、顧客満足なども参考とされる。

「グリーン購入」

…組織が業務活動において使用する文具などの物品を環境配慮型製品から選択する活動のこと。組織はこの活動を適して、自社の購買起因の環境負荷をすこしでも減少させることができ、供給業者の環境配慮型製品開発を促進するという側面も併せ持つ。

「グリーン調達」

…国や地方公共団体、事業者が製品に使用する部品や資材を選定する際に、価格や品質、納期だけを重視するのではなく、環境配慮（リサイクル可能、長期間使用可能、再生原料の使用など）を調達基準に追加すること。

「コーポレート・ガバナンス」

…日本語に訳すと「企業統治」。企業を健全に運営するためのしくみ。経営者に権限が集中による弊害を監視し阻止すること、組織ぐるみの違法行為を監視し阻止すること、企業理念を実現するために業務活動が方向づけられていることを監視すること。

「コンプライアンス」

…かつては「法令遵守」と訳されていた。日本では「法令遵守」だけではなく、自社のルールや倫理や道徳を含む社会的規範を遵守することを指すようになってきた。

「フェア・トレード」

…今まではコストを下げるために発展途上国の人々を安い賃金で雇い、衣料品や工業製品を作らせて、輸入し低価格で製品を販売していたが、そのため、子どもたちまで働かなくては生きていけないという状況をつくり出してきた。フェア・トレードはこの従来方式とは異なり、公正な価格を生産者に支払うことで生産力や経済状況を向上させることを目的としている。

「リスクマネジメント」

…リスクアセスメントによって特定されたリスクに対して、そのリスクを低減させる活動プロセスを指す。

4. CSRの本質を見極める

①消極的 CSR になっているのでは？

☆昨今 CSR に取り組む企業の動きには、「評価されるから取り組む（評価される事項は取り組む）」「評価されないから取り組まない（評価されない事項は取り組まない）」といった姿勢が見え隠れする。

↓

原因を挙げるとすれば日本では市民レベルでの CSR 意識が低いことが挙げられる。

企業の動きが社会の構成員に影響を与える現代において、個人、団体を問わず、社会の構成員全員が CSR に関心を持ち、コミットメントすることが不可欠。

②根本的な解決へと導くことは可能か？

☆①で述べたように CSR をよりよいものにするためには市民レベルでの努力が必要不可欠である。しかし、その同意は必ず得られるわけではない。

↓

たとえば発展途上国。彼らにとってみたら環境問題などより、今日、明日の生活のほうがクリティカルなイシューである。

そんなところで CSR に同意を得られることはできるのか。

5. 終わりに～山田の私見～

「本来 CSR の起源は、企業的前提でもある『利益に奔走する行為』と、企業に期待することは難しい『社会に貢献する行為』とを、自由市場を通してどのようにして結びつけるかというところで現れた概念である。いってみれば、『倫理観』というものをいかにして売り物にすることができるのか、といったところか。しかし、その『倫理観』も消費者の嗜好に合致しなければ意味はなさない。わたしは、ここに CSR のもろさ、そして同時にこれからの新時代を築く一システムとしての可能性の乏しさを見て取る。」

【参考資料】

- 環境省の HP <http://www.env.go.jp/policy/index.html#econo>
- 社会的責任（持続可能な環境と経済）に関する研究会報告書
<http://www.env.go.jp/policy/report/h17-04/houkoku.pdf>
- 環境調和産業推進室 HP
http://www.meti.go.jp/policy/eco_business/index.html
- CSR レポート検索できる
<http://www.eeosearch.jp/kankyoplz/kigyouse1-1.php>
- 環境報告書大賞・講評 <http://www.nikkei.co.jp/csr/>
- 日経 CSR プロジェクト <http://www.gef.or.jp/eco-com/>
- CSR 担当者のインタビュー <http://www.kataru.jp/index.html>
- IBM <http://www.ibm.com/jp/>
- CSR 用語集 <http://csr-bj.jma.or.jp/term/>

梅田徹『企業倫理をどう問うか』2006 NHK ブックス

岡本享二『CSR 入門』2004 日経文庫